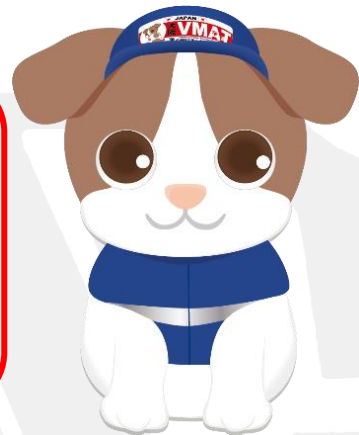


VMATとは

災害動物医療支援チームの略で、
人と動物に関わる様々な事態に対し
減災、防災、災害時の対応・復旧、
復興協力支援する組織です。



大阪 VMAT は動物を救うことが人や環境を守るという理念のもと
動物救護等対策委員会が中心となり、2017年1月に設立しました。
現在、獣医師、動物看護師の40名で活動しています。

近年、大阪でも2018年の大阪北部地震、台風21号と比較的大きな
災害が発生しました。また南海トラフ地震がいつ発生してもおかしく
ありません。

災害発生に際しペットとの同行避難が原則となっていますが、まず自
分の身の安全を確保する事、つぎに家族、家、近隣が優先されます。
その為には、日頃からの防災、減災の知識、準備、心構えをしっかりと
しておきましょう。






同行避難したあと、避難所内に入れるかどうかは各避難所によって異なり
避難所生活では平時の適正飼育が大きなカギとなります。

- ①飼育頭数の制限：一人で、一度にたくさんの動物を連れて逃げることは、避難行動上
あるいは避難所の受け入れも困難となります。多頭飼育の場合には在宅避難が必要となる場合もあります。また逸走中に繁殖しない
ため去勢・避妊手術についても考えましょう。
- ②健康管理： 持病がある場合にはペットフードやお薬など余裕をもって常備し
ておきましょう。
- ③各種予防： 狂犬病予防注射は法律で定められているのでかならず受けておき
ましょう。また各種ワクチン、フィラリア予防、
ノミ・マダニ予防も必要です。
- ④個体識別： 犬の登録、鑑札の装着、迷子札、マイクロチップなど逸走した場
合や離れ離れになった場合にも連絡先がわかるようにしておきま
しょう。飼い主さんと一緒に撮った写真があれば良いです。
- ⑤社会化
トレーニング： 避難所では見ず知らずの人や、他の動物と狭い空間で生活す
る可能性があります。いろいろな人や動物に慣れさせる訓練や
ケージの中でも大人しくできる訓練をしておきましょう。
- ⑥飼い主のマナー： 普段から、散歩時の糞尿始末やリードをつけての散歩など社
会的なマナーを心がけましょう。
- ⑦飼い主の共助： 自分が留守の場合、自宅にいる動物の安否確認や避難所での
共同生活には、飼い主同士の協力が重要となります。普段か
ら、いざというときに助け合える仲間を作っておきましょう。
避難所では、安易に見知らぬ人や団体に動物を預けるのは避け
ましょう。
- ⑧預け先： 避難生活が長引いたり、生活を立て直すため、しばらくの間、動
物を飼育できない場合に備えて、遠くの親戚や知り合いなど、預
け先を探しておきましょう。

非常時に備えての準備

～ チェックシート ～



- 首輪、リード、ハーネス（係留可能なもの）
- 鑑札、狂犬病予防注射済み票、迷子札 
- キャリー（劣化していないか定期的に強度をチェック）
- 飲み水 
- ペットフード（処方食の場合は多めに!! おやつ、トッピングなど）
- 食器と水入れのボール（普段から使って慣らしておく）
- 常備薬と緊急用品（薬の種類、量、回数などを記載したもの）
- 排泄用品（ペットシート・ネコ砂・消臭剤） 
- 健康手帳と診察券（ワクチン歴、血液検査結果など最新データ）
- その他 タオル、新聞紙、ウエットティッシュ、ビニール袋、
ガムテープ、カッターナイフ、油性マジック

※過去の災害では、特殊なものを除き、ドッグフードや飲料水、ペットシートや猫砂などの支援物資は、比較的早い段階で避難所に届きました。非常袋にたくさんのものを詰め込むと、いざ避難となった場合に、逃げ遅れる可能性があります。準備したあと、自分が持って逃げれる重さに再調整しましょう。



動物を救うことが人命や環境を守る



 公益社団法人 大阪府獣医師会

